

競技注意事項

1. 規則について

本大会は2018年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習について

(1)ウォーミングアップおよび練習は、補助競技場・雨天練習場・投てき練習場を使用すること。

(2)練習場の使用については、役員の指示に従い、安全に留意すること。

(3)本競技場内における競技前の練習は、競技開始 30 分前までとし、すべて競技役員の指示に従って行うこと。ただし2日目に行われる開会式は、競技開始の30分前より行われるので、開会式時間帯は本競技場内の練習を禁止する。

(4)前日練習について

① 前日の練習については各大学で責任をもって行うこと。本連盟は責任を負わない。

② 投てき練習場を練習場所として本連盟が開放する。

③ 補助競技場は個人使用をすることができる。(使用料は一人200円)

(5)補助競技場について

① 補助競技場における練習については左回りとし、トラック内での逆走は禁止する。

② ハードルの使用については、110mHは8、9レーン、100mHは7レーン、男子400mHは6レーン、女子400mHは5レーンを使用すること。その他のレーンでハードルを使用することは禁止する。

③ スターティングブロックを使用する際は周りに注意を払い、安全に留意すること。

④ 補助競技場内でのテントの設置は禁止する。

(6)投てきの練習について

① 練習については、役員の指示に従うこと。

② 公式練習は全種目、本競技場内で審判の指示により行う。

③ やり投は招集の後、本競技場内で練習ならびに公式練習を行う。

(7)雨天練習場について

① 100mスタート方向から一方通行とし、戻る際は100mスタート側からみて、左端を通行すること。

② 走練習のみとし、ハードル・スターティングブロックの使用は厳禁とする。

③ 各校の控室としての使用は禁止する。

3. 競技場使用の注意

(1)ゴミ袋を学校受付の際に配布するので、清掃を徹底し、ゴミは各大学が責任を持って持ち帰ること。

- (2)更衣の際は正面玄関入って右手奥にある更衣室を利用すること。更衣室での場所取りは禁止する。また、荷物は各大学で責任を持って管理すること。
- (3)バックスタンド3日間とも解放し、全体応援はバックスタンドのみとする。ただし、バックスタンド付近で競技が行われている場合は、競技の妨げになる恐れがあるため控えること。
- (4)メインスタンドでの部旗・横断幕の掲出は一般観衆の妨げとなるため禁止する。
バックスタンドでの掲出は認めるが、解放時間は3日間を通して開門後とする。ただし、中央聖火台付近のロープで区切られた区域への侵入、部旗・横断幕の掲出は禁止する。掲出の際は必ず紐のみを使用し、ガムテープ等の使用は禁止する。
- (5)大会前日、また当日中の開門前の場所取りは厳禁とする。閉門時にはシートを含め、荷物はすべて持ち帰ること。テープもすべてはがすこと。開門前、開門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している大学を発見した場合、嚴重に注意し、その大学の以降の出場を認めない場合がある。
- (6)シートの固定等で競技場内においてテープを使用する場合は、養生テープのみに限定し、その他のテープ類(ガムテープ等)の使用は堅く禁止する。
- (7)駐車は係員の指示に従い、第2・第3駐車場に駐車する。バスは第1駐車場を使用すること。ただし、事前に駐車申請されたバスに限る。駐車場の不足が予想されるため、車での来場は控え、できる限り公共交通機関等を利用すること。駐車しない車は混雑を避けるため、駐車場への侵入を禁止する。
- (8)競技場は全天候舗装型であるため、使用するピンの長さは9mm以下、走高跳・やり投については12mm以下とする。
- (9)当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技の出場を認めない場合がある。
- (10)競技場内において競技者は助力と見なされるビデオ、カセットレコーダー、ラジオ、CD・MDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォン、もしくはそれに類似するものを使用する、または所持することも禁止する。勧告を受け入れられない場合は失格となる。なお、その他競技者に対する助力については競技規則第144条を適用する。
- (11)医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中(補助競技場等含む大会会場)において起こった怪我に対しては主催者側が応急処置を行うが、それ以降の治療に対しては一切責任を負わない。ただし、出場者は原則として、スポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必ず保険証のコピーを持参すること。
- (12)メインスタンド下の競技場内通路は関係者以外の進入を禁止する。
- (13)スパイクで競技場内通路を通行することは厳禁とする。
- (14)貴重品の管理は各大学および各個人で責任を持って行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合については、インフォメーション・センターにて一時保管する。
- (15)開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。

期 日	開門時間	閉門時間
5月18日(金)	8:00	18:00
5月19日(土)	8:00	18:00
5月20日(日)	8:00	17:30

4. 招集について

- (1)招集所は競技場1F 正面玄関付近に設置する。
- (2)招集の方法について
 - ① 競技者は出場種目の招集開始時刻になり次第、招集所でスパイク、ナンバー、商標の確認を受けること。
 - ② スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。
- (3)代理人による招集は認めない。ただし、他の種目と招集時間および競技時間が重複する場合は、招集所に重複届を提出すること。
- (4)混成種目の招集は2日間とも最初の1種目のみ招集所で行う。以降の種目については現地にて招集を受けること。混成競技者控室は正面玄関入って左側すぐの更衣室に設ける。
- (5)リレーのオーダーについては、メンバーおよびオーダーの変更の有無に関わらず、ラウンド毎にオーダー用紙(インフォメーション・センターに用意)をインフォメーション・センターと招集所に提出すること。提出締切は招集完了時刻の1時間前とし、遅れた場合出場を認めない。怪我等によるこれ以降の変更は、主催者の任命した医師の判断がない限り認められない。また、招集開始時刻になり次第、全員で招集を受けること。
- (6)招集完了時刻に遅れた競技者は出場を認めないので十分に注意すること。
- (7)招集時間は競技日程を参照すること。

	トラック種目	棒高跳、やり投	その他フィールド種目
招集開始時刻	競技開始 40 分前	競技開始 90 分前	競技開始 60 分前
招集完了時刻	競技開始 30 分前	競技開始 80 分前	競技開始 50 分前

5. 不出場(棄権)について

競技参加者の不出場については、大会の運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず不出場となる場合は以下の要領で申し出ること。

- (1)大会3日前(5月15日)までに不出場が判明している場合は、本連盟ホームページより不出場届をダウンロードし、必要事項を記入の上、5月15日(火)18時までに本連盟事務所に提出すること。(FAX可)
- (2)上記期日以降にやむを得ず不出場となる場合には、不出場届(インフォメーション・センターに用意)に必要事項を記入の上、招集所及びインフォメーション・センターに提出し、承認を得ること。な

お、この手続きを行えば、その競技者は以降の競技に出場できる。

(3)不出場に際し、申し出の無い場合は、以後の大会の出場を認めないなどの厳しい処分を課す場合がある。

6. ナンバーカードについて

(1)ナンバーカードは平成 30 年度九州学連指定の登録ナンバーカードを着用すること。

(2)ナンバーカードはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸・背のいずれかにつければよい。ナンバーカードの折曲げは禁止する。

(3)トラック競技は写真判定機を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。**ただし、男女 10000m、男女 10000W については両腰につけること。**腰ナンバーカードはフィニッシュ後、ただちに係員に返却すること。※第 143 条 7・8・9 項を参照のこと。

7. 競技の抽選・番組編成について

(1)トラック競技の準決勝以降の組み合わせは、主催者が公平に抽選し、決まりたい掲示板に掲載する。

(2)トラック種目における次のラウンドへのプラス選出の際に、同記録が複数出た場合、写真判定により 1000 分の 1 秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合には、本人または代理人によって公平に抽選を行い、決定する。ただし、1500m、3000mSC の場合は該当者全員が次のラウンドに進出できる。※競技規則第 167 条を参照のこと。

(3)写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

(1)不正スタートに関しては、競技規則「第 162 条 7」の適用により失格とする。

(2)スタートの合図は” On Your Marks”、” Set” で行う。

(3)短距離種目では競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。

(4)リレー種目について

①各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツ、ランニングパンツの区別は設けない。

②全ラウンドにおいて、最初に編成して申し込んだメンバーの中から最低 2 名は出場しなければならない。それ以外の 2 名はプログラムに記載のある選手であれば、予選ラウンドから出場できる。

③次ラウンドにおける交代は 2 名以内でなければならない。なお、出場チーム数の都合上、単一ラウンド(決勝のみ)となった場合、次のラウンドに進んだものとする。※第 170 条 10 項参照のこと。

④4×100m リレーに使用するマークテープは本連盟が用意したものを使用すること。マークテープは招集所にて配布する。※第 170 条 4 項参照のこと。

⑤4×100m リレーのテイクオーバーゾーンが、今年度より変更になったので確認すること。

- (5)男子 5000m、10000mについてはタイムレース決勝とする。
- (6)男女 10000m、男女 10000mW については、給水を設置する。また、男女 5000m については、気象条件により設置する場合がある。
- (7)男女 5000m、男女 10000m、男女 10000mW については下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技者がどの段階にあっても速やかに競技を中止させる。ただし、下記の設定時間を過ぎても上位 8 名がフィニッシュするまでは競技を続行する。

男子		女子	
5000m	18' 00"	5000m	21' 00"
10000m	37' 00"	10000m	42' 00"
10000mW	55' 00"	10000mW	65' 00"

- (8)男女 5000m、男女 10000m については当日の状況を見て、インレーン、アウトレーンへの振り分けを行う。役員の指示に従うこと。
- (9)男女 5000m、男女 10000m についてはフィニッシュの際に、4レーンより外側のレーンでゴールすること。

9. フィールド種目について

- (1)跳躍種目のバーの上げ方は原則として以下の通りとする。

種目・種別	練習	バーの上げ方
走高跳	男子	1m70、2m00
	女子	1m30、1m50
	十種	1m45、1m85
	七種	1m15、1m50
棒高跳	男子	3m80、4m40
	女子	2m80、3m40
	十種	2m30、4m00

※同成績の場合は競技規則第 181 条 8 項を適用する。

- (2)走幅跳は、男女とも 2 ピットで競技を行う。
- (3)男子三段跳は 2 ピット(ともに 13m)、女子三段跳は 1 ピット(10m)で行う。
- (4)男子走幅跳・三段跳については、円滑な運営のため、以下の記録に達していない場合は計測を行わない。ただし、ベスト 8 については順位を決定させるためにすべて計測を行う。

	走幅跳	三段跳
男子	6m40	13m50

- (5)2018 年 4 月 1 日より跳躍に関する規定が変わり、以下の通りとなったので十分注意すること。
日本陸連「第 180 条総則－フィールド競技 試技時間」

(陸上競技ルールブック 2018 254 ページ)

～(前略)～つぎの試技時間は、通常の場合超えてはならない。試技時間を越えたら第 180 条 18 を除き、無効試技として記録する。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>30秒</u>	1分	<u>30秒</u>
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さのみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>30秒</u>	1分	<u>30秒</u>
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人または連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※※残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

10. 対校得点・表彰について

- (1)各種目の得点は、1位8点、2位7点、3位6点、…、8位1点の8点制とする。
- (2)総合得点が同点の場合、優勝種目の多い大学を上位とする。優勝種目が同数の場合は2位種目、3位種目、…、8位種目を各々比較し、より多い大学を上位とする。
- (3)各種目3位までに入賞した選手は競技終了後直ちに表彰を行うので、本部横の入賞者控室に集合し、表彰係の指示に従うこと。入賞者が集合できない場合は、代理人を出すこと。また、表彰時の服装は、上半身はユニフォーム、下半身は各大学のジャージまたはウィンドブレーカーとする。
- (4)閉会式において、成績の優れた男女1名を最優秀選手として表彰し、最優秀選手賞とトロフィーを授与する。
- (5)競技者が8名に満たない種目についても8点制とする。

11. 用器具について

用器具はすべて競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポール、やりについては個人のものを使用を認める。その場合、他の競技者にも使用させなければならない。ポールの検査については競技実施エリアで審査員が随時行う。やりについては競技開始1時間半前にスタート地点付近の用器具庫にて検定を行う。使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者の負担において賠償の責任を負うものとする。この場合、主催者はその責任を負わない。

12. 抗議について

(1)抗議は競技規則第146条に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから30分以内に、次のラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから15分以内に競技者自身または代理人が総務に申し出る。

(2)審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金(¥10,000)を添えて、正式な手続きをとる。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

13. 商標について

2018年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2015年度よりユニフォームに関する規定が変更になったので注意すること。

14. 各書類提出先について

書類名	配付場所	提出先・依頼先
不出場届	インフォメーション・センター	招集所及びインフォメーション・センター
重複出場届	招集所	招集所
リレーオーダー用紙	インフォメーション・センター	招集所及びインフォメーション・センター
記録証明書	インフォメーション・センター	インフォメーション・センター
上訴申立書	インフォメーション・センター	学連本部(要預託金)

15. その他

(1)オープン参加選手は予選ラウンドのみ出場とし、決勝のみの種目に参加した場合でも、順位は記録しない(フィールド種目についても同様)。

(2)記録証明書を希望する競技者は、300円を添えてインフォメーション・センターまで申し込むこと。

(3)競技場内での写真、ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため大会関係者及び主催者に許可された者以外の撮影は禁止する。盗撮防止のため、大会役員が声をかけることがあるが、その場合は速やかに許可証を提示すること。また、許可なく撮影している者を発見し次第、厳重に処分する。

(4)競技結果等は記録処理終了後に随時、本プログラム P.32 に掲載する大会速報サイトにて発表を行う。

- (5)主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を厳守し、個人情報を取り扱う。
なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラムの編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (6)ポールおよびやりの返送について
返送を希望する場合は、インフォメーション・センターにて輸送の手続きを行うこと。
- ※以上の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合必ず従わなければならない。**